

1面 見学旅行
2面 本田瑠々花さん
 霍間右京さん

The MinamiKo

発行所

北海道札幌南高等学校
外局みなみ新聞局
札幌市中央区南18条西6丁目
発行責任者 樹田 悠月

見学旅行大調査!!!

10月21日から25日にかけて2年生は見学旅行へ行った。九州（主に長崎）と関西で過ごし、それぞれの地では自主研修も行われた。関西の自主研修は宿泊した京都のホテルが出発地となっていたが、京都限定ではないためUSJなどといった班もあった。現2学年は森づくり活動やスキー授業など、なかなか天候に恵まれることがなかったが見学旅行では5日間晴れが続き、様々な観光地で楽しい思い出をつくることのできた。



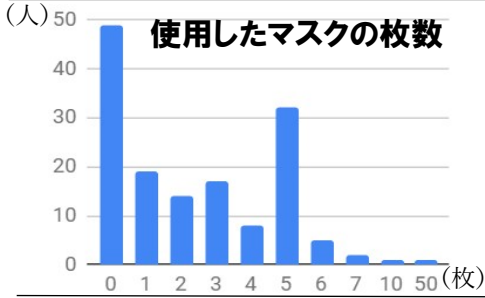
▶奈良公園のかわいい鹿。鹿せんべいを持った人にはすぐよっつく

今回は見学旅行で訪れた様々な場所や11月3日から6日にかけて実施した見学旅行アンケートの結果を用いながら旅の模様についてお伝えしよう。

アンケートの総回答数は148票であった。（複数回答があったため、回答数は延べ人数である）

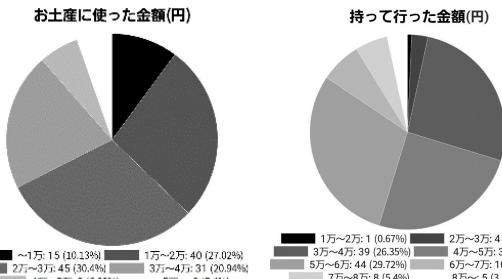
マスク どうした

今回の見学旅行は今年の5月8日にマスクの着用が個人の判断に委ねられるようになったため、久しぶりにマスクを着けなくともよい見学旅行となった。2学年では、旅行前の2週間、感染症予防としてマスクをつける人が増えていた。アンケートでは旅行中にマスクを使用しなかった人が49人と一番多かった。次いで5枚使用した人が32人と多くなっている。見学旅行は5日間であったため、毎日使用した人が二番目に多かったといえそうだ。（1日1枚使用とは限らないため一概には言えないだろう）



お金事情

例年の持参額平均は、3万5千円程である。しかし、今年はそれよりも高い金額を持って行った生徒が多かった。お土産に使った金額の平均が2万5千円程であり、使いきれず残ったという声も多くあったため、3万5千円くらいが妥当な持参額なのではないだろうか。

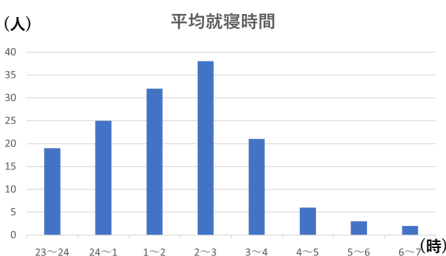


思い出の景観

昨年度、現3年生対象に行われたアンケートでは、多いものから順に、長崎は新地中華街、グラバー園、軍艦島、大浦主天堂、眼鏡橋。京都・大阪では嵐山、伏見稲荷大社、USJ、鹿苑寺金閣、東寺、天龍寺がランクインした。今年度のアンケート結果では、去年ランクインした場所と大差がないものの、九州では宿泊したホテルが1位で、ホテル屋上から見える夜景の印象が強かったからであろう。

就寝時間

ルームメイトと雑談や恋バナで花を咲かせたり、カードゲームやオンラインゲームで盛り上がったなどして、日付をまたいでから寝床につく人もいれば、中には徹夜した人もいた。しおりに記載された就寝時間は結局、形式上のみのものである。



九州ランキング		関西ランキング	
順位	場所	順位	場所
1	稲佐山観光ホテル	1	嵐山
2	大宰府天満宮	2	京都駅
3	新地中華街	3	旅館GINKAKU
4	原爆資料館	4	稲荷大社
5	平和公園	5	鹿苑寺金閣
6	グラバー園	6	道頓堀
7	長崎駅	7	USJ
8	眼鏡橋	8	大阪駅
9	軍艦島	9	あべのハルカス
10	伊王島	10	梅田スカイビル
	その他		その他



- ①長崎港の船、観光丸
- ②鹿苑寺金閣
- ③USJ
- ④太宰府天満宮
- ⑤大浦天主堂
- ⑥嵐山昇龍苑

弓道&英語弁論 全道大会優勝！！

全国への切符 掴み取る



▲的に狙いを定める霍間さん (本校弓道場)

自分の納得でできる射を

13年ぶり弓道部全国出場

霍間右京さん

203の霍間右京(つるまうきょう)さんは、10月8日(土)、9日(日)に小樽市で行われた第45回北海道高等学校弓道選抜大会(北海道大会)・男子個人戦で優勝した。12月23日(土)〜25日(月)に東京都足立区で行われる第42回全国高等学校弓道選抜大会への出場を決めた。

雑念排除と集中

弓道に使われる的は直径36cmで、28m離れている。弓はアーチェリーの精巧な弓とは違ってシンプルであり、狙いが定まりにくい。静かに行われる大会の緊張感も相まって、思った通りに打てるかどうかは心の持ちようにより大きく左右される。「(大会は)本心に緊張する。全然当たらない」という時もあるし、調子が良くてよく当たるという時もある。他のことを考えると当たらなくなりますが、それを考える余裕も「正直ない」とのことだ。霍間さんの場合は、心を落ち着かせるため競技の控え時間に自分なりの体勢で

中、2本連続的中させ1位となった。

悔しさが大きい

意外にも全道優勝については「賞状をもらった時には嬉しかった。でも今はあまり嬉しくない」とのことだ。「個人戦の次の日にあった団体戦では

3位で、全国出場はできなかった。お互いにカバーし合える団体戦が好きだから、本当は団体で勝ち進みたい。みんなで東京(全国大会)に行きたかった。自分も団体戦では内容が良くなかった」と悔しさが残る表情で語る。「大会明け初日は、団体戦で上手くいかなかったのと、実テが返ってくるとでがっかりしていた」。全国大会だけでなく全道大会の出場も初めてで、「どうして自分が全国に」と感じたという。

自分との闘い

「運良く優勝することができた」と回想する霍間さんだが、全国大会は優勝が目標というわけではない。「全国は自分との闘いになると思う。正直当たるかどうかはやってみるまでわからないけれど、後悔しないように、たとえ調子が悪くてもできる限りのことをしたい。自分の納得できる射をすることが一番の目標です」と静かな決意を見せた。全道大会での心残りを胸に、全国へ立ち向かう。

いかに聞き手を楽しませるか

英語弁論大会全道優勝

本田瑠々花さん

204の本田瑠々花(ほんだるるか)さんは、10月29日(日)に札幌市札幌学院大学で行われた第24回全道高等学校英語弁論大会・スピーチ部門において優勝し、2月11日(日)に東京都渋谷区国立オリンピック記念青少年総合センターで行われる第16回全国高等学校英語スピーチコンテストへの出場を決めた。

選考権をテーマに選んだそうだが、「今は17歳で、来年には18歳になる。18歳になったら選考権ももらえるというのが理由の1つ。もう1つの理由としては、中学時代からずっといろいろな弁論大会に出ていろいろな題材を既に話している、結構題材を切り替えて来ている。その状況で考えた時に、選考権の題材が使えるのは18歳までのせいじゃない、2年で、来年はもう受験を控えているので大会には出られない。そうなると思うのが丁度いいのでは」と話した。

「書き出しは相手に自分を印象付けられるか決まるから、いかに相手に自分の話を聞かせるかに注力した」。

前ALITのジン先生や現ALITジェイソン先生にも協力してもらい、3回書き直しをした。完成形が出来たのは夏休みの終わり頃。その原稿をすべて覚えたあとは、発表本番に向けたジェスチャーや相手としっかり目を合わせて話す練習をした。

「本番で一番緊張したのは、やはり原稿がとばないかどうかだった。予定しているジェスチャーなどではなくても自分しか分からないけれど、原稿がとばと聞いている相手にも気づかれるので気をつけました」。

去年と同じく全道大会

大会では全道各地から集まった17人が順番にスピーチをしていき、審査員が合計25点満点でつけた点数で競う。発表者は発表している間は原稿も何も見ずにスピーチをし、その後質問者からの英語の質問に英語で答える。発表時間は最大5分30秒。発表のテーマは自由。今回本田さんは、

今回のスピーチで話した内容は、今年の5、6月頃から考え始めた。3つほど内容の候補を出して、その中から書き出しが書きやすいものから書き始めた。

「運良く優勝することができた」と回想する霍間さんだが、全国大会は優勝が目標というわけではない。「全国は自分との闘いになると思う。正直当たるかどうかはやってみるまでわからないけれど、後悔しないように、たとえ調子が悪くてもできる限りのことをしたい。自分の納得できる射をすることが一番の目標です」と静かな決意を見せた。全道大会での心残りを胸に、全国へ立ち向かう。

▲優勝トロフィーを持つ本田さん(本人提供)



に出場したので緊張しすぎることはなく、他の発表を楽しんで聞くことが出来たそうだが、「蛙化現象について話した人がいて、とても印象に残っている。弁論大会自体は想像されるよりも堅苦しくなく、聞いている人を楽しませよう、聞かせようと思っ作っている。最大5分半の発表時間もすぐに過ぎてしまふ。それにその人の独自のエピソードもあるので、参加すると様々な経験や考えが分かります。相手を

入賞目指して

「中学時代に出た大会でも全国はレベルが違ったから、今回の大会も上位に入るのには難しいと思う。目標をはっきりと決めることはできないけれど、入賞を目指して頑張りたい」と意気込みを語った。

祝 2名入局!

なんと1年生2名が!

これで存続できますね

まだまだ入局あてです!!

わーい!!!